

平成24年 敬老作文集

敬老作文コンクール入賞者の表彰と最優秀賞を受賞された方からの朗読発表が、今年も敬老式会場で行なわれました。

例年同様に、井川小学校2年生並びに5年生、井川中学校2年生を対象として、合わせて116名の応募をいただき、小・中学生の部それぞれより、最優秀賞1点、優秀賞2点、優良賞2点の計10点の入賞作品が決まりました。

入賞された方々の敬老作文を、ご紹介します。

小学生の部

最優秀賞

やさしいみち子おばあちゃん

井川小2年 土肥 更紗



更紗さん
(さくら)

みち子おばあちゃんに会いたいな。わたしとみち子おばあちゃん、いっしょにくらしています。みち子おばあちゃんは、とおくにすんでいます。なかなか会うことができないので、いつも早く会いたいと思っています。

みち子おばあちゃんは、あそびに行くときわたしにいつもおいしいごはんを作ってくれます。春には、わたしとみち子おばあちゃん、山へふきのとうをとりに行きました。みち子おばあちゃん、春のおくりものふきのとうをたいせつにっていました。わ

たしもみち子おばあちゃんのまねをして、たいせつにとりました。二人でとったふきのとうをてんぷらにしてたべました。てんぷらにしてたべたふきのとうは、すごくおいしかったです。おにいちゃんやお父さんやお母さんも「おいしい、おいしい。」

と言ったべてくれました。また、春になったらみち子おばあちゃんといっしょにとりに行きたいと思っています。

一年生のころ、わたしは、お手だまがやりたくてみち子おばあちゃんにそうだったことがありますが。みち子おばあちゃんは、すぐ教えてくれました。わたしのおねがいをするにかなえてくれます。いち・に・いち・に心の中でリズムをとってお手だまを上げてごらんと教えてくれました。みち子おばあちゃんの言うとおりにれんしゅうしたら、どんどん上手になつてきました。今でもれんしゅうをがんばっています。このつぎ、おばあちゃんに会えた時には、上手になつたお手だまを見せてあげたいと思います。

優秀賞

野さいはかせのおばあちゃん

井川小2年 湊 菜摘



菜摘さん
(坂本)

「おばあさん、わたし学校できゅうりをうえることにしたよ。」

生かつかのべん強で野さいをそだてることになった時、きゅうりをうえたいとすぐに思いました。わたしの大好きなきゅうり。そして、おばあさんが上手に作るきゅうりだからです。

わたしのおばあさんは、野さいのものしりはかせです。いつも野さいのことを教えてくれます。ミニトマトはわきめをしつかりとること、きゅうりは水を朝にあげることを教えてくれました。おばあさんのはたけには、いろいろな野さいがうえてあります。おばあさんのはたけに行くときすぐ野さいサラダができてしまいそうです。その中でもきゅうりは、いつぱいなっています。そのきゅうりをわたしは、たくさんたべています。

この間、はたけからとってきたきゅうりをお花のように切って作りました。作った時おばあちゃんを見たらにこっとわらってくれました。おばあちゃんのわらった顔を見ると何だかうれしくなります。

おばあちゃんは、お母さんと同じくらいおいしいりょうりを作ってくれます。わたしは、一つのことらず「おいしい、おいしい」と言いながらぜんぶたべます。たべているわたしを見ておばあさんは、うれしそうにしてくれます。だからもつともつとおいしい顔をしてたべます。するとおばあちゃんは

ますますにこつとしてくれて、わたしもうきうきしてしまいます。

学校でとれたきゅうりをいえにもってかえたらおばあちゃん「おいしそうなきゅうりねっ。」と言ってくれました。そのきゅうりをふたりでサラダにしました。ふたりで作ったサラダは、とってもおいしかったです。

おばあちゃんは、いつもたいへんそうだからわたしができるお手つだいをがんばります。

優しくしてくれる

おじいさん、おばあさん

井川小5年 伊藤 李紗



李紗さん
(上村)

私のおじいさんは、農業をやっているとても力持ちです。田んぼのことなら、ほとんど知っています。冬には、毎年、雪で大きな大きな坂を作ってくれます。時には、大きな大きなまくらを作っ

てくれて、それを私たちが学校に行っている間、休まずに続けてくれます。友達が遊びに来た時には、すぐく楽しがつてくれるし、おじいさんも満足してくれます。

昔は、ゴルフ、バスケット、野球、すもう、をやっていて、今もグランドゴルフと野球をやっています。

このように、仕事をあきらめないで続けていて私は、そんなおじいさんがかつこいいなあと思います。

おばあさんは、習い事や部活に送ってくれたり、おいしい料理を作ってくれます。

そして、私たちには、卓球のラケットの打ち方や、少しだけピアニを教えてください。

おばあさんは、昔、卓球の試合で何回も優勝していて、「すごいなあ。」と思いました。

このように、おじいさんとおばあさんにはたくさん愛情をもらって育てられたので、私は今度からきづかってあげたいと思います。

おじいさん、いつもいつも農業のことをがんばっていて、おかげ

でおいしいお米が毎日のように食べられて、私は幸せです。これからもできることがあれば手伝ってあげたいです。

おばあさん、いつもお母さんが仕事に行っている間、おいしい料理を作ってくれてありがとうごさいます。作った物は健康にいい物ばかりです。これからも、めいわくをかけると思いますが、私は、おじいさんやおばあさんになるべくめいわくをかけないようにしたいと思います。おじいさん、おばあさん大好きです。これからもよろしくお願ひします。

優良賞

やっぱりすごい、おばあさん

井川小2年 今野 珠希



珠希さん
(小竹花)

わたしのおばあさんは、すごいところがたくさんあります。

おばあさんは、もうやめているけれど、まえにけんこうセンターでぼけんしのしごとをしています。よぼうちゅうしゃをしにきた人のおせわをしたり、パソコンのあるへやでしごとをしたりしているすがたを見ました。そのかおはとてもしんけんで、「しゅう中しているのだな。」と思いました。

だからわたしは、じやまをしないようにしました。わたしがかえってきてもしごとをしていて、おそくまでがんばっているおばあさんは、すごいと思いました。きつとおばあさんは、井川町の人たちのことを考えておしごとをがんばっているのだなと思いました。今はやめてしまっているけれど、おしごとをしているときのおばあさんのしんけんなおは、今も、わたしはおぼえて、おもいでになっています。

そして、わたしやおねえさん、いもうとのことを大じにしていています。わたしを大じにしてくれている気もちは、わたしのたん生日になると、とてもわかります。たん生日になると、朝早くに

大きなチーズケーキをおうちにとどけてくれます。わたしの大好きなチーズケーキです。たん生日にチーズケーキがとどくと、しあわせがとどく気がします。「たん生日は、しあわせの日」わたしはこのことばをたからものにして、がんばっていいこうと思います。

しょうらいわたしは、ふくやになりたいたいと思っています。おばあさんにまけないようにど力して、わたしがつくったふくをみんなにとどけたいです。たくさんの人へ思いが伝わるようなふくがつけられたら、と思っています。いつかきつとゆめへと近づいて、すてきなお店を開いておばあさんにわたしがつくったふくをとどけてあげたいです。いろいろな人にたのしんでふくをきてもらいたいです。

私のおばあさん

井川小5年 二田 那優

私のおばあさんは、明るくて、いつも元気です。友達の家遊びに行く時や、習い事の送りむかえなどは、ほとんどおばあさんが運転してくれます。



那優さん
(寺沢)

そんなおばあさんが、がんばっていることは、田んぼの仕事と畑の仕事です。特に、私たち五年生は、田植えをしたので改めて田んぼの仕事は大変だなあ、と思います。おばあさんは、いつも早起きして田んぼに行きます。畑の仕事では、いちごを作っているようです。この前、食べてみたら、少しすっぱかったけれど、おいしかったです。

ちなみに、おばあさんのしゅみは、お花づくりです。家の周りには、お花がいっぱいあります。私が一年生の時にもらったブルーベリーも大切に育ててくれていました。

おばあさんには得意なこともあります。それは、何かを作ることです。おばあさんの部屋には布が何十種類もあって、私は、それを

見ているとわくわくします。それに、おばあさんの作ったものは、学校でもたくさん使っています。ズックぶくろに、お道具ぶくろ、給食ぶくろなどがそうです。私は、おばあさんの作る物が大好きです。

私が、学校から帰ってくると、「宿題は終わったの？」とかくにんしてくれます。家に帰るとゴロゴロしている日がほとんどなので、しゅしゅぶやることが多いです。でも、習い事が終わってからの宿題、というのはなかなかやる気が出ません。いつもかくにんしてくるおばあさんには感謝しています。でも、もう五年生なので、私も自分で自己管理するようにがんばります。

私は、おばあさんの作る物や野菜、お花が大好きです。習い事もおばあさんが送りむかえをしてくれるので感謝しています。これからは、家庭科で習った料理などを作ったり、お手伝いをたくさんしたいです。

中学生の部

最優秀賞

ごめんね、ありがとう

井川中2年 佐々木 花津



花津さん
(横岡)

私は、おばあちゃんが大好きです。大好きなおばあちゃんに「ありがとう」の気持ちを伝えたくて、この作文を書きました。

私のおばあちゃんは、「大」がつくほどお人好しで、優しい人です。私がテレビや本を見てこれを食べたいと言うと、作り方を自分で考えて料理してくれるし、私に困ったことがあると、笑顔でそっと背中を押してくれるそんなおばあちゃんです。

私は以前、学校から疲れて帰ってきて、おばあちゃんに冷たくあたってしまったことがあります。

でも、おばあちゃんは怒るわけでもなく、

「どうしたの？学校で何かあった？」

と、聞いてくれました。私だったら絶対に怒るはずなのに、逆に心配してくれるおばあちゃんが不思議でなりませんでした。

「どうしてそんなに人に優しくできるの？」

と聞いた私に返ってきたのは、

「花津ちゃんが頑張っているのが分かるから、私も頑張れるんだよ。」という言葉でした。おばあちゃんが、いつもこんな風に考えていてくれたのかと思うと、胸がいつぱいになりました。

いつも笑顔のおばあちゃんですが、一度だけ、ものすごく泣いている姿を見たことがあります。それは、おじいちゃんが亡くなってしまったときのことです。優しいおじいちゃんが亡くなって私とても悲しかったのですが、おばあちゃんがおじいちゃんをこんなに大切に思っていたんだと、改めて知り、二人のことがますます大好きになりました。

おばあちゃん、いつも、いい子にしてもらって、ごめんね。

素直になれなくて、ごめんね。迷惑かけて、ごめんね。謝らなければいけないことがいっぱいあるけど、謝れなくて、ごめんね。でも、私はおばあちゃんのこと、大好きだよ。そして・・・ありがとう。

優秀賞

元気なおばあちゃん

井川中2年 小玉 彩乃



彩乃さん
(街道)

私のおばあちゃんは、とても元気です。家事をしたり、畑仕事をしたりと、毎日毎日よく働いています。

おばあちゃんは、私のことをよく理解してくれている人の一人です。私がつまみに会いに行くと、「彩乃来たあ〜。」と言います。私がつく嫌な思いをしているとき

も、何も言わずに、笑顔でとなりにおいてくれます。おばあちゃんは、とても人の心が分かる人です。

でも、いつも元気なおばあちゃんも、おじいちゃんが亡くなったときは、とても大変でした。元気がなくて具合が悪くなり、笑顔が少なくなりました。見かねて

「おばあちゃん、大丈夫なの？」と私が聞くと

「大丈夫だよ」

と答えるものの、すごく無理をしているのは子どもながらも分かりました。時間がたって、いつもの元気が少しずつ戻り、再び笑顔が見られるようになったときは、本当にほっとしました。

おばあちゃんにはとても感謝しています。私が悩んでいるときには助言してくれたり、黙ってそばにいてくれたり、誕生日などのお祝いごとには、その人の好みに合わせてプレゼントしてくれたり。たくさんあって、ここでは書ききれません。

私は中二になり、部活が忙しくなり、勉強も難しくなりました。文武両道が達成できるように、頑

張りたいと思っています。でも、辛くて息抜きしたいときは、おばあちゃんの家に行き、おばあちゃんの元気な姿を見て、辛さを吹き飛ばしたいです。

感謝の気持ちはあるのに、今まで改まってその言葉を口にしたことはありません。でも、これからは、あばあちゃんに「ありがとう」の気持ちをたくさん伝えていきたいです。

明るいおじいちゃん

おばあちゃん

井川中2年 八柳 優星



優星さん
(街道)

僕のおじいちゃん、おばあちゃん、隣の町に住んでいます。月に三回くらいのペースで会いに行くのですが、僕はそれを楽しみにしています。僕が行くとすごく明るい笑顔で「お、来たな」と言っ

行くとなまにやらされるのがお手伝い。自分の家の手伝いは面倒な感じがしますが、おばあちゃんのお手伝いは、不思議なことに苦になりません。おまけに、終わるといつも、何かごちそうしてくれます。そんな優しいおばあちゃん

が僕は大好きです。おばあちゃんが好きな理由は他にもあります。それは、疲れている僕に、元気をくれることです。疲れを吹き飛ばしてくれる、おばあちゃんあの笑顔は僕の宝物です。

おじいちゃんは仕事でいないことが多く、おばあちゃんに比べると、会う機会はそう多くはありませんが、僕を田んぼや山に連れて行ってくれます。山に行くと一緒に山菜を採ります。僕はおじいちゃんに教えられて、山菜を採るのが好きになりました。

また、今、僕はバスケット部の主将を務めています。僕が頑張っているのは、おじいちゃんのおかげだと思っています。六月の郡市総体で負け、三年生から二年生にバトンタッチされたとき



のことです。実は二年生のバスケット部員は僕一人で、あとは七人の一年生の力を借りて、新チームを作っていかねければならなかったのです。そんなとき、おじいちゃん

「二人しかいないから大変だと思いうけど、お前ならきつとなんとかできる。」
と言ってくれました。それ以来、その言葉を思い返して頑張っています。

こんなおじいちゃん、おばあちゃんに、僕はずっとお世話になってきました。今まで本当にありがとう。そしてこれからもよろしく。

優良賞

ずっとずっと長生きして

井川中2年 菅生 颯太



颯太さん
(井)

僕の家では、おじいちゃんとおばあちゃんが、田んぼと畑の仕事のほとんどを頑張ってくれていました。

しかし、おじいちゃんが二月に亡くなってしまい、おばあちゃんが昨年から施設に入ってしまった。僕はこれからどうなってしまうのだろうかと思いました。

そんな時、僕の母方の新聞に住んでいるおじいちゃんが、「よし、やろう」

と言って畑のことをやってくれることになりました。その一言がどんなにうれしかったか。

それは、じいちゃんの決断によって不安が消えたからというこ

ともありますが、その一言で、家族が前よりもさらにまとまったように感じたからです。やっぱり、じいちゃんの力はすごいなああと、改めて思いました。

僕も部活がないときなど、たまに畑の手伝いをしていると、僕もじいちゃんの、そして家族の役に立つことができるのだという達成感がわいてきます。

また、じいちゃんは、当たり前のことかもしれないませんが、家族をととても大事にしています。新間のおじいちゃんとおばあちゃんは、神奈川に住んでいて八年前に帰って来たのですが、僕のいとこの家族が神奈川で暮らしています。井川に帰ってからは、神奈川の家族とはなかなか会うことができせん。だからかもしれないが、普段のじいちゃんは井川にいる僕たちに本当に優しく接してくれます。連休のときなど家族が神奈川から帰って来ると、必ず一緒にどこかに出かけたりしています。

八月には、ひいおばあちゃんが亡くなり、僕には今、おじいちゃん

んと二人のおばあちゃんしかいなくなりました。三人には、本当にずっとずっと長生きしてほしいと思います。

私の祖父と祖母

井川中2年 武田 奈々



奈々さん
(さくら)

私のおじいさんは、私が小学校三年生のときに亡くなりました。

おじいさんは、昔は田んぼをやっていたそうですが、私が覚えているおじいさんは、いつも家にいて、そのころ飼っていたニワトリの世話をしたり、居間で新聞を読んだりしていました。当時、私はおじいさんやおばあさんとは一緒に住んではいかなかったのですが、ちよくちよく遊びに行ったり、泊まりに行ったりしていました。そんなとき、いつもおじいさんは遊んでくれました。私はまだ

幼かったので少々ワガママだったのですが、おじいさんはいつも優しく接してくれて、とても楽しかったのを覚えています。

おじいさんが亡くなって、私はおばあさんと一緒に住むことになりました。父母と離れて暮らすということには多少の不便もありましたが、おばあさんを一人にはできなかつたからです。実際に暮らしてみても、私はもつと早く、おじいさんが亡くなる前に来てあげればよかつたなあと思いました。あれから四年以上、私はおばあさんの生活を続けてきました。

おばあさんは現在、もう七十歳を超えています。元気に働いています。建設会社の社長で、お母さんよりも元気な感じがします。仕事が終わってからも畑に行くなど、すごくよく働きます。

今、家を新しく建て直している。ので、おばあさんは会社に、私は父母のもとに戻って住んでいます。会社と家はすぐ近くなのです。会社と家はすぐ近くなのです。おばあさんと離れると、やっぱり



寂しいです。家事も全部父母がやってしまうため、なんだかかヒマです。おばあさんと一緒に家事をするのはとても楽しかつたので、早く家を建ててもらい、また二人で住みたいです。そして、おばあさんには、ずっと長生きしてほしいと思います。